

令和元年度第10回士別市教育委員会会議録

1. 日時 令和元年10月21日(月)午後3時58分～午後5時15分
2. 会場 教育委員会 教育長室
3. 出席者
教育長 中峰寿彰 生涯学習部長 鴻野弘志
代理 五十嵐紀子 朝日地区スポーツ統括監 長南広基
委員 千田秀昭 文化振興統括監 漢幸雄
委員 馬場千晶 合宿の里統括監 三上正洋
委員 加藤洋之 学校教育課長 須藤友章
学校教育課事務管理監 大留義幸
学校教育課教育管理監 藤田泰昭
生涯学習アドバイザー 文仙敏宏

4. 議件(発言者、議事要旨及び議決事項)

○中峰教育長あいさつ

各学校の学芸会も温根別小学校を残すのみとなった。南小学校では歌や劇だけでなく体育の要素を織り交ぜた発表も行っていった。昨日は南中学校、先週は士別中学校の吹奏楽部の演奏会が開催され、まさに文化の秋到来。今後、幅広い年代の市民が参加する総合文化祭が開催される。各地域、それぞれ特徴ある発表もあるため、皆さんも是非足を運んでいただきたい。

前回の会議でお知らせしたとおり16日に臨時議会が開催された。議会では、給食センターのみならず、教育委員会や市全体の事務執行体制などについての指摘もあった。

2020東京オリンピックでマラソンと競歩が札幌で開催されるとの報道があり、今後の動向を注視しているところ。もしそのような状況になれば、合宿の受け入れに力を入れている本市や網走市などが脚光を浴びる可能性もあるなかで、何ができるかなど様々な視点から検討していきたい。

これまで、千田委員には3期12年に亘り活躍いただいたが、本日が任期中最後の会議となる。大変お世話になったことに、改めて感謝申し上げます。

本日も、よろしく願います。

1 議事について

○中峰教育長 進行

議案第26号 令和元年度全国学力学習状況調査における士別市の学力等の分析について説明を求める。

○文仙アドバイザー

(別紙資料を基に説明) 本年からA問題・B問題という区分がなくなり、初めて中学校での英語の調査が実施された。中学生の結果を見ると、数学では関数、英語では書くことなどの正答率が低く、これらの苦手な問題をどう克服するかが課題である。学習状況調査は出題されている問題や回答している生徒が毎年違うため、前年の結果と比較してもあまり意味がない。比較の方法として小学生の時の結果を踏まえ、その子たちが中学生になってどうなったかという視点での捉え方も大切であると考えている。

○中峰教育長

まずは分析についてご意見を伺い、今後の対応については後ほど協議したい。

○五十嵐代理

一般的な視点として子どもの学力がどの程度か、校内のどのレベルにあるか気になるのではないかと。

○中峰教育長

明らかになっているのは、あくまで今回の問題に対して、全国や全道の平均と比べてどうだったかという結果である。小学校で実施している授業改善チームの取り組みについては成果として表れている一方で、引続き家庭での学習時間の課題や英語の必要性に対する意義などの課題が明らかとなっている。

○五十嵐代理

教師が子どもたちに対し、学習の興味を持たせるための技量が問われているのではないかと。

○中峰教育長

学校ではそれぞれ現状を分析し、工夫に努めているところであるが、更なる工夫・改善は不可欠である。

○文仙アドバイザー

学校では児童・生徒ごとの個人票を基に、改善プランを作成するなどして、充実に努めている。

○中峰教育長

個人票はどのような内容か。

○文仙アドバイザー

何問中何問正解といった程度。

○加藤委員

小学生の時の結果が絶対値ではない。子どもの環境によっても結果が変わる。

○馬場委員

過去の実例として、自分の子どもは、指導する先生が変わったことによって、自らしっかりやろうとする気持ちが芽生えたということもあった。

○加藤委員

全国学力のような、広く実施されるテストの内容に対し、授業の進み具合は追いついているのか。

○中峰教育長

今回の調査は4月に行っているため、小学5年・中学2年段階で習得されている内容が出題されている。

○加藤委員

他の民間テストなどでは、習っていない問題が出題されていることがあった。

○文仙アドバイザー

学校では授業時数の確保だけでなく、教科書を全て終わらせるよう進度にも気を配っている。

○馬場委員

中間・期末テストの成績は良いが、なぜか学力テストの成績は良くないとの話も聞く。

○五十嵐代理

なぜ授業改善チームは3校で実施しているのか。

○中峰教育長

現在3年目を迎えているが、昨年までは土小・南小・西小で実施していた。西小の閉校に伴い、本年から剣淵を加えて実施している。道教委からはある程度の規模がある学校で実施することが望ましいと説明されている。できれば、土別市内の学校で継続されるよう、上川教育局に申し入れしているところ。

○藤田管理監

JTでは3校に各1人の加配教師が配置されている。チームを形成し、ローテーションを組んで3校で

授業を行っており、効果が現れている。

○五十嵐代理

理想は市内全校で実施することだと思う。

○中峰教育長

引続き、成果を検証しなければならない。子どもたちへの指導ではなく、先生に対する指導をベースとしている。全校で実施できることは理想かもしれないが、そのためには全ての加配分を市単費で賄うことが必要になる。

○藤田管理監

時数も決められており、小規模校には向かない事業ではないかという側面も有する。

○中峰教育長

道の事業として、基本的な年数は今年度で終了する予定だが、来年以降どうしていくか確定している訳ではない。上川教育局には、引続き事業の継続を要望していく。市で雇用している支援員などもチームで指導していくことの構想も持っている。いずれにしても、より細かく一人ひとりの子どもに対応できる指導体制を拡充していくことが必要。

○千田委員

無回答率が高いところがあるのは気になる。

○五十嵐代理

まじめで設問の順番どおりに答えているのではないかということも一つの要因と考える。

○中峰教育長

そのために、時間が足りなくなってしまうということも考えられなくはない。

○文仙アドバイザー

英語に関しては、答えようと努力している様子が見られる。

○中峰教育長

個別具体的にはそれぞれの学校で検証しているところ。全市的に共通する改善策としては、さらなる ICT の活用が効果的と思っている。士中・南中には新しいパソコンと合わせ、無線 LAN を整備した。今後うまく活用してもらいたい。地域によっては、光回線が来ていない所もある。先日視察した比布中学校では、実物投影機や大型ディスプレイを含め、かなり ICT 機器が活用されている印象があった。

チャレンジスクールは、実行委員会で開催しているが、宿泊の対応などの課題もあり、見直しの話もでている。

○藤田管理監

士子連と協議する予定だが、2回目の実施にあたっての募集を行ったところ、12人の申し込みがあった。それなりのニーズがあると感じている。

○五十嵐代理

「参加して良かった」との感想が、子どもたち自身から寄せられているとも聞いている。他校の子どもも仲良くなり、違う視点が得られたのではないかな。

○中峰教育長

社会教育の事業への参加は、口コミが大きな要因となる。保護者や子どもたちにどうやって働きかけるか、あわせて先生方にも協力していただき、その意義を伝えてもらいたい。

○加藤委員

参加することで、間違いなく経験値が向上し、友人ができるなどの幅広い効果がある。

○中峰教育長

「地域人材の活用」については「まだまだ」との回答があった。他地域に比べると、CSの活動が進んでいると感じている学校であっても、その地域で求めるレベルの違いから、このような回答になったものと判断している。

※ 議案第26号 了承

2 その他について

当面する今後の日程について

鴻野部長説明。

午後5時15分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者 中峰 寿彰

会議録調整者 須藤 友章